別紙１

農林水産業の活力創造のための緊急的な研究課題（例）

○　新たな自給飼料と放牧を組み合わせた牛肉生産や畜産の特徴ある品種のための飼養管理技術の確立

畜産分野では配合飼料価格が高止まりする中、高齢化や離農が進み、農家戸数や飼養頭数が減少するなど、生産基盤の弱体化が懸念されており、高収益型の畜産を推進していくためには、生産コストの低減とともに、畜産物の付加価値向上や新たな需要創出等を進めることが必要である。

このため、多様化する消費者ニーズを踏まえた肉質や乳質などに特徴ある品種を活用した畜産物の差別化を可能にする飼養管理技術や畜産物の衛生的な加工技術、新たな自給飼料の給餌と放牧を組み合わせた牛肉生産技術体系の確立等の実証を行う。

○　食品の機能性表示制度に向けた生鮮食品の品質安定化技術の確立

平成２７年度から実施される食品の新たな機能性表示制度においては、農林水産物も対象とされているものの、機能性を担保するためには、機能性関与成分のバラツキを抑える品質安定化技術が必要である。

このため、成分含有量のバラツキを抑える栽培技術や実際の出荷現場で利用可能な非破壊測定装置を用いた成分含有量の保証技術、産地等でも簡易に測定できる成分含有量の分析法の開発など、品質安定化技術の実証を行う。

○　クロマグロの安定生産を可能とする緊急養殖生産技術の実証

太平洋クロマグロの親魚資源は歴史的最低水準付近にあり、先の国際会議で漁獲量削減が合意され、国内での規制が強化される。

このような状況の中、マグロ養殖のもとになる天然稚魚を有効に活用するため移動や蓄養中の生存率の向上、蓄養した後の養殖生産の向上やマグロに適した配合飼料の開発等、安定した養殖マグロ生産技術の実証を行う。

さらに、マグロ資源への影響を緩和するため、定置網等により混獲されたクロマグロ幼魚の放流なども検討する。

○　その他の緊急的かつ重要な課題

- 「和食」の魅力を高め、輸出需要にも対応した農林水産物の生産技術の開発
- 今後の地域の農林水産業の姿を見据え、農山漁村の有するポテンシャルを引き出す新たな生産体制への転換に資する革新的技術実証
- 魚類養殖における配合飼料の低コスト化を目指した配合飼料の開発
- 内水面水産資源に対する被害防止技術の実証

等